ロブストス高垣の 今日も一丁あがり♪

第19話

開発から商品化までの工程には膨大な工程が積み重ねられている！の巻

皆さん、こんにちは！　30歳を過ぎて、どういう訳か脇に汗をかくようになったロブストス高垣でございます。夏本番、脇汗が滲む前に全身で汗をかくほど頑張れという神様のお告げでしょうか（汗）？　今以上の仕事をするためには起きている間の集中力を高めるしかないと思い至りまして、4月から生活習慣を変えてみたんです。基本は「よく寝る」「朝食を抜かない」の2つ。さらに仕事中はこまめに休憩を挟んだり、お酒もやめたりしたおかげで生まれ変わったように調子が良くなりました。でも、日々悩ましいのは昼食の取り方で、調子に乗って食べると午後の集中が乱れるし、その逆もしかり。調べてみると、体調を一定にキープするためには血糖値の変動が少ない低ＧＩ食品とやらが良いみたいなんですね。たとえば主食ならそば、タンパク源ならチーズやヨーグルト、アーモンド、納豆、そして野菜だとトマト、キュウリ、枝豆――。

そうだ、今月は枝豆に関わる仕事の話をご紹介しましょう♪

開発機と製品の違いとは

今回の依頼は機械の改造でも部品の修理でもなく、秋田県農業試験場とヤンマーアグリジャパンが6年の歳月をかけて開発した「えだまめ整形マルチ播種ロータリーＥＭ１６０」のプロトタイプ（開発機）を製品仕様に仕上げるというミッションです。

ニプロ松山、鋤柄農機、アグリテクノ矢崎の作業機を連結させて、一畦一条蒔きの二畦同時作業で耕うん・整形・マルチ・播種を一発で終わらせます。初めて見た時は感動しましたが、開発されたのは「連結部品」と「改造部品」で、1台あたりの部品数は最終的に50点以上に。まず、試験場に3日間こもって、機械をバラし、手加工で作られた部品を機械加工に変換すべく図面を起こします。これらを再生産可能にし、一定の品質で管理しなければなりません。

続いて、群馬に帰って部品製作へ。部品ごとに図面や製造工程を作成して、材料を集めて、２００工程以上を管理します。ボルト・ナット類だけでも30種類３００個以上になり、正直なところ気が遠くなりました（苦笑）。そして、塗装までバッチリ仕上げた部品類は傷をつけずに運搬・納品しなければなりません。

組立の指示書を作ろうと思えばとんでもなく時間がかかるので、僕が現場に行って見本を組み立てて完成～～～♪　製作以外に付随する業務も多く、マジで神経がすり減って何度か泣きそうになりました。

今回お伝えしたいのは、「つくってよ」というご提案をいただいてから新商品になるまでの過程です。プロトタイプを作るのはもちろん大変ですが、そこから製品化に至るまでにも一苦労があるんです。この仕事に携わったおかげで、製品開発や製品管理に関わる方々の大変さを改めてよく理解できました。皆さん、新製品開発には積極的かつ親身なご協力をお願いします（笑）。今後もお声がかかれば、昼食に低ＧＩ食品の代表格・枝豆を食べて、バキバキに集中して頑張りますよ！　ということで！　今日も一丁あがり～～～♪

高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に㈱ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。㈱ロブストス・代表取締役社長。

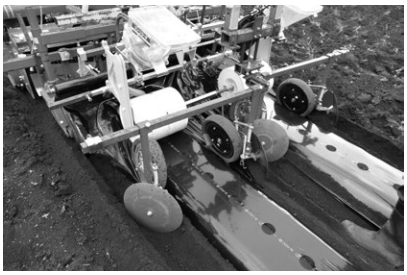

写真１：プロトタイプ機による実演の様子

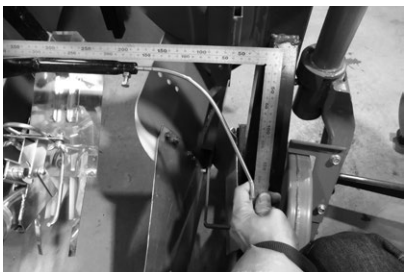

写真２：手加工の部品の寸法は現場で黙々と拾って図面を起こす

写真３：完成した「えだまめ整形マルチ播種ロータリーEM160」。群馬で仕上げてきた部品の組立作業は緊張で手に汗にぎる！